



Vol. **133**

**2018
Summer**

平成30年7月1日

発行人 長野県民生委員児童委員協議会連合会
会長 伊藤 篤志

編集人 編集委員会
委員長 熊井 文弘

〒380-0928 長野市若里7丁目1番7号
(長野県社会福祉協議会内)

特集

初期の認知症への対応を学ぶ

Contents

- ◆ 特集 初期の認知症への対応を学ぶ 2~3
- ◆ シリーズ 児童委員の役割を考える
事例(佐久市子育て支援4者連絡会) 4~5
- ◆ 民児協訪問
下條村民生委員児童委員協議会 6
中野市豊田地区民生児童委員協議会 7
- ◆ 平成30年度長野県民生委員児童委員協議会連合会事業計画 8

初期の認知症への対応を学ぶ

特集

認知症の早期発見や、その対応について悩む声が聞かれます。そこで、今回の特集では、専門的に現場で相談にあたっている佐久市の保健師で認知症地域支援推進員と、松本市と安曇野市で認知症医療に取り組む篠崎医院の医師で理事長の篠崎孝さんに、早期の認知症への対応について、広報委員がそれぞれお話をうかがいました。



▲右が桜井秀子さん、左は佐久市役所施策担当・保健師 土屋佳恵さん

認知症地域支援推進員に聞く

認知症地域支援推進員・保健師

桜井秀子さん

認知症地域支援推進員とは、新オレンジプランの7つの柱の一つ「認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供」の中で、2016年より「認知症地域支援推進員」の設置が市町村に義務付けられました。佐久市では保健師・看護師の3人が推進員となり、認知症への対策にあたっています。現場で多くの認知症の高齢者と向き合う桜井秀子さんに、土屋珠江広報委員が直接お話をうかがいました。

要支援者希望の1/4は認知症

—— まず推進員としての仕事を教えてください。

桜井 認知症に関して、個別の相談に乗るほか、地域での啓発事業も行っています。まずは、電話などで相談があれば、ご本人に可能な限りお会いするようにしています。定期的な訪問で介護者の精神的な支援が主になっています。3人で年間延べ400件以上の対応をしています。

—— 他にはどんな活動をしていますか。

桜井 認知症サポーター養成講座などの講座を各地でしています。また、月1回市全体でオレンジカフェ座談会の開催も。当事者、介護者、ケアマネジャー、介護事業所、民生児童委員が参加します。また包括支援センターを中心に個別会議も開催し、民生児童委員にも参加していただく場合もあります。

—— 現場で感じることは？

桜井 佐久市では、要支援の認定を受けた人の25パーセントは認知症が主な要因です。高齢化社会で、このようなケースは増える一方です。介護者による虐待にもつながりかねない。経済的にも負担がかかり、サービスを受けさせない傾向にもあります。

—— 認知症がわかったら、どうすればいいですか。

桜井 まず、ご家族がカミングアウトしてください、とお願ひしています。ご近所の方に状態を知っていたら、ご近所の方に状況を伝える。

—— 認知症の早期を見分ける方法は？

桜井 郵便物が玄関に放置されている。ゴミの分別ができなくなる。急に痩せてきた。話のつじつまが合わない。お風呂に入らないという傾向もありますので、近づくこと尿臭がするなどです。

郵便物放置、ゴミの分別や尿臭がカギ 包括支援センターへつないで情報共有を

—— 私たちが気づいても、ご本人に認識がない場合は？

桜井 ご本人の言うことを否定したりせず、まずは、包括支援センターや私たち高齢者福祉課などの担当課に連絡してください。

—— 私たちが近所にしゃべったと言われないうかがいしょうか。

桜井 包括の職員からご本人に説明してもらうのがいいでしょう。ご本人が拒否しないように健康相談として訪問するなどの工夫をしています。

—— 認知症の診断してもらうのに、病院へどう連れて行ったらいいですか。

桜井 素直に「健康診断に行きませんか」など、ご家族と相談して、シナリオを描いて、対応する方法もあります。

—— つないだ後にぜひフィードバックが欲しいというのを願ひしたいですね。

桜井 そつですね。こちらからのお願ひとしては、つないだただく際には、客観的な状態に加え、民生児童委員さんが感じたことを率直に共有していただけると参考になります。

—— ありがとうございます。

篠崎医院豊科診療所には外来に加え、思春期青年期
デイケア、老人デイケア、訪問看護ステーション、
保育所があります。



認知症の専門医に聞く

医療法人篠崎医院

理事長

篠崎 孝さん

——最初に、篠崎医院開設の経緯を教えてください。

篠崎 信州大学を卒業し、精神神経科教室に入りました。しばらくして、保健師さんたちに声を掛けられ「大学の中だけでなく現場を見なさい」と地域に引っぱり出されました。その後昭和60年頃から当時の豊科保健所の担当医になりました。そこで保健師と地域に出てベッドサイドティーチング・勉強会を始めました。平成9年に松本市で午前中は思春期の診療、午後は高齢者の往診という形で開業。その後、平成16年、勉強会での基盤の上に豊科診療所を開設しました。患者に添う医療を基本としています。思春期のデイケアと老人デイケアとしては、全国でも規模は大きいと思います。ドクターは全国から集まり、現在5人態勢です。



▲右は篠崎 孝さん — 精神科・心療内科医師、篠崎医院
(松本市)・豊科診療所(安曇野市)運営
インタビュー：増田早苗 広報委員
協力：安曇野市中央地域包括支援センター 宮入大悟朗さん

初期症状は鬱、段取りができない

——認知症について教えてください。

篠崎 精神科で認知症を治療するとき大切なことがあります。脳という臓器の不具合によって、意識が障害され軽度には振れている時があります。この時トントンカンなことを言ったり興奮したりします。真の認知症とは違います。そこを治療すればよくなる可能性が高いのです。まず、この鑑別をすることが大切だと思います。

——薬での治療ということですか。

篠崎 もちろん薬もありますが、人が接する、会話をすると、そして運動することが大切なのです。

——どうして認知症になるのでしょうか？

篠崎 脳の機能の低下です。例えば、お酒や脳出血などの要因で、脳の破壊によって認知症は進行します。進んでも問題なく社会で生活できるレベルもあります。周囲が困る言動が表面化したときに問題となるのです。

——加齢による脳の変化を教えてください。

篠崎 大雑把に言つと、20才を過ぎると脳細胞は減り始めます。3、40代は知識や理解力が増し、頭の回転が良くなります。50代は経験で乗り切り、60代はその余勢で生きていきます(笑)。ところが70代になると脳細胞が顕著に減り、動きが鈍くなり気分がささなくなり、機能低下するので努力しないと覚えられなくなり、経験が蓄積され判断力を保っていることもあります。

——認知症初期の特徴を教えてください。

篠崎 脳細胞が減ると鬱に傾くのが一般的な初期症状です。日課が億劫だとか、とにかく腰が重くなるのです。よく観察していくと、食事作りなどの日常の段取りができなくなるのも特徴です。

——どうすればいいですか。

篠崎 ちよっと声をかけることです。この時が添い時です。専門的なアドバイスを受けながら日常生活のサポートを考えていきます。更に症状が進

むと、おしゃれな方がシャツをはみ出すなど、以前なら考えられないことが出てきたら要注意です。人格そのものが低下してくるのが初期症状であり認知症の定義です。

当事者を中心に本音で連携すること

——対応方法へのアドバイスをお願いします。

篠崎 いま、「地域連携」と言っています。医師も保健師も、会議だけではなく、現場に行かないといけません。当事者を中心に対策について本気で意見を戦わせるのが大切です。他職種に馴れ合ったり、譲り合ったりして、当事者がいつの間にか遠くに行ってしまうのはいけないのです。各地で医師や保健師等々が一緒に、現場に沿う勉強会を立ち上げることを切望します。ケアマネや福祉関係者が参加できるオープンな勉強会継続が地域福祉の土台づくりとなるのです。

——ケアマネとの懇談は役立っていますか。

篠崎 症例を保健師に指導を受け発表してみてもいいでしょう。学び合いスキルを高め合うことが大事です。

——対処についてフィードバックをお願いしていますか。

篠崎 現場で接しているのは、多くは民生児童委員です。地区担当の保健師やケースワーカーなどの専門家を、皆さんが主体的に動かしていくことです。地域・現場が主導権をもつことが大事なことです。

——病院は少し敷居が高いと感じますか。

宮入 豊科診療所の東医院長は認知症初期集中支援チームのチーム医になっていただいています。ケースごとに最初の訪問の時に、一緒に行ってくれるのがあります。

篠崎 みなさんも地域で、当事者を中心に、ぜひ本音で医師とも意見交換をしてください。

——今日はありがとうございました。

シリーズ 児童委員の役割を考える

子育て支援 事例

佐久市



▲全体会の様子、総勢85人が出席

佐久市子育て支援4者連絡会

つなぐでは、「児童委員の役割」に焦点をあて、シリーズで子育て支援事例を紹介しています。今回は佐久市の「スクールメンタルアドバイザー」の存在と、毎年開催されている「子育て支援4者連絡会」が本年4月19日に佐久市野沢会館で開催された様子をお伝えします。参加者は、小中学校校長、スクールメンタルアドバイザー、民生児童委員協議会正副会長、主任児童委員、児童館長、教育委員会、総務部支所、福祉部（福祉課・子育て支援課）、総勢85人が参加。全体会と中学校区ごとの懇談会を行いました。

全体会で子育て支援の方向を確認

こども支援ネットワークの確立を

全体会では、教育長、佐久市校長会会長が、子育てをめぐる社会的背景から、いじめ、家庭での心理的児童虐待の実態などを説明。今回集まった様々な支援関係者が、ネットワークを作りどう連携していくかを投げかけました。続いて主催した佐久市福祉部長が、今回の会議では、それぞれの立場で取り組みを紹介し合い、一層の連携と、地区ごとに更に視点を絞った情報交換や、ネットワークづくりなど、会議の趣旨を確認しました。

また佐久市独自のスクールメンタルアドバイザー6人を紹介。そして小平實民生児童委員会会長は「家庭での支援が最も難しい。家庭に訪ねても支援はいらぬといわれてしまう。学校・地域・関係機関の連携を密に

する必要がある。粘り強く見守りながらつなぎ役として支援していきたい」とあいさつしました。

民生児童委員にとつて、子どもに関する情報がなかなか得られないという課題がある中、全体で顔の見える支援者会議として、民生児童委員の間でも大変好評です。



▲佐久市野沢会館の中のチャレンジ教室

スクールメンタルアドバイザーが 佐久市の子育て支援関係者を結ぶ

佐久市教育委員会では、現在スクールメンタルアドバイザーを6人置いています。学校長等の経験者で教育を熟知し、また佐久市の地域の特性を理解した人材です。中学校区に1人（1人のみ2校担当）設置。学校からの相談、家庭や子どもからの直接の相談などに対応し行政の関係機関へつなぎます。必要があれば担当の民生児童委員にも声をかけ、時には家庭に足を運んで、子どもたちやその保護者の相談にも乗ります。20年ほど前に数名設置されたのをきっかけに、その後、実情に応じた支援体制を築き今の形に。小田良男アドバイザーによると「事務所に座っていることはほとんどなく、毎日支援に歩いている」といいます。また電話で家庭から就学やいじめ、不登校などについて相談できる「コスモス相談」にも対応。「学校側が直接保護者に伝えられないこともある。第三者の立場から問題解決にあたれる」とその利点を話します。子どもを育てる上での頼れる存在として、教員を始めとして教育関係者、そして保護者からも信頼を得ているという印象を受けました。



中学校区ごとの懇談会

—— 一つ一つの事例を4者で共有 ——



▲スクールメンタルアドバイザー小田良男さんが司会

4者連絡会議は、スクールメンタルアドバイザーが中心となり、中学校区ごとに行う懇談会です。中学校長、小学校長、児童館長、地区の民生児童委員会長(土屋珠江さん)、主任児童委員(小林真人さん)が、スクールメンタルアドバイザー(小田良男さん)の司会で密度の濃い情報交換をしました。

中込地区の懇談会にお邪魔しました。個人に関わるデリケートな発言は省略させていただきます、前半の一部を要約して紹介します。

司会 子どもは児童館も学校も同じととらえている。学校と児童館の連携が必要では。

児童館長1 今、児童館は学年もまたがっており、なにか気になることがあったとき、担任に連絡し早めに共有するようにしている。

司会 親は、子どもを預けることで負い目を感じていることもある。その気持ちを汲み取り、どう保護者に寄り添うかが課題。

児童館長1 学校を下校した後に先生たちがよく顔を出してくれる。学校のすぐ前にあるため、立地条件が良く気軽に行き来できる。

児童館長2 連携の大切さは理解しているが、学校とは離れた立地で、なかなか先生と話す機会が取れない。校長とは3月と7月に情報交換しているが、個別の問題にはなかなか踏み込めない。

司会 家庭の問題にどう入り込みバックアップするか。

児童館長2 その日にあったことは保護者とすぐ解決するようにしている。しかし、最近の傾向として子どもたちの言葉遣いが乱れている。

司会 相手を思いやる言葉の使い方

の指導を普段からやっていくことも大切では。

小学校長 全職員で言葉や暴力についての指導をし、共通理解した。また児童館のスタッフには礼儀をもって接するよう子どもたちにも指導した。**主任児童委員** どんな大人に育ってほしいかという概念を我々みんなが共通理解したらどうか。

司会 重点を決めて取り組むことはいい。今後はなにか一つ共通の目標を作り、それぞれの立場から取り組むのは大事。

児童館長2 心が育つ子どもになってほしい。子どもたちは世の中のニュースに敏感。ふとした時に子どもたちと社会で起きたことを話し合ったりしている。

小学校長 学校では見られない一面が児童館で見られ、のびのびとしている姿はありがたい。

司会 民生児童委員のみなさんも、ぜひ児童館に来て、子どもたちと触れ合ってほしい。

会長 12月に餅つきがあって、児童館に5、6人でお手伝いしている。みんなに日ごろからお邪魔するよう話してみる。

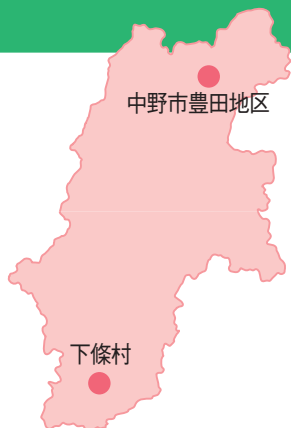
(以下略)



▲中込中学校区の4者懇談会の様子

司会 最後に、みなさんへお願い。子どものいる家庭での問題が複雑化している。行政は同じ家庭でもそれぞれ部署が違う。民生児童委員、学校、児童館とそれぞれの立場のみなさんに、情報をいただき、連携して子どもたちをサポートしていきたいのでぜひ協力を。

訪問



記者が地区民児協におじゃまし、会長や委員とコミュニケーションを図って、第三者の目でレポートしていく「訪問」コーナーです。

民児協
だより



下條村民生委員児童委員協議会



▲団結力の強い10人。前列真ん中が小木曾英司会長。

自立した元気な村らしい、
自発性中心のムリない活動

長野県の最南端に個性的な13の村々が集結する下伊那郡。下條村は、その一員です。明治22（1889）年の町村制施行で発足以来、一度も合併せずに今日に至る自立心あふれる下條村は、いち早く少子化対策にのりだし、山間地の村にもかわらぬ高い出生率を維持していることでも知られています。働く場の多い飯田市まで約30分という利便性に加え、家賃の安い若者定住促進住宅整備や、高校生までの医療費無料化などが成果をあ

げたもので、人口減少にも歯止めがかかり2010年には約4200人という記録的な数字に達したものの、その後は減少に転じた3800人弱。高齢化率が33.55%となつています。

民生児童委員9人、主任児童委員1人の合計10人のうち、3期目が4人、2期目が5人、新人が1人です。小木曾英司会長も3期目で、会長になって5年。1期限りの委員が増えているとの声が上が

中、その兆候のないのが下條村民児協です。秘訣を「ムリをしないこと」と小木曾会長。一律に行うべき義務は最小限にし、各自が自発的に活動しやすい雰囲気づくりに努めています。



▲毎年の親睦旅行で英気を養います。平成28年は熱田神宮へ。

実はおしゃべりをしたくて頻繁に訪れるケースも少なくありません。そのため、誰もが安心して話せる場づくりを心がけています。

12月には、隣接の飯田地区、泰阜村の高齢者施設を訪問するものも恒例です。入所している下條村出身者を激励するため、故郷の村から来たというだけで笑顔になるのが嬉しいといいます。

道普請などは、村から提供される資材で村民が協力して行うのが下條村の決まり。連帯意識も強く、一人暮らし家庭の情報なども自然に委員に届くため、タクシー券配布がてらの見守り以外は自主性任せ。定例会も自由闊達な空気の中で進んでいました。

中野市豊田地区民生児童委員協議会



▲支所の大会議室で（一列目真ん中が高橋一美会長）

市職員との連携を背景に、各委員の経験を活かし、問題解決に丁寧に対応。

「故郷」「朧月夜」を生み出した高野辰之の出身地として知られる旧豊田村。高野辰之記念館をはじめとした関連スポット、そして千曲川の美しい風景を望める場所としても、多くの観光客が訪れる地です。

2005年中野市と合併し、現在は、旧村役場が支所の役割を果たしています。この4月から支所長も豊田地区出身、職員とも地域のことを相談しやすい顔の見える

体制になっています。

「明治期の合併の名残で三つの地域それぞれに特徴がある」と話すのは、会長の高橋一美さん。上井地区は由緒・歴史がある地域。豊津地区は支所がある中心的な地域で比較的自由な雰囲気。穴田・永江地区は斑尾山のふもとで、美しい原風景がある文学的なエリアだといいます。

高橋会長は3期目。「65才の時に推薦をうけ、民生児童委員に。就任して1カ月目に民家の債権者と居住者間のトラブルに関する相談があり、大変な思いをした」と振り返ります。地域の絆がのこり、民生児童委員が身近な存在であることが、一方で高齢者や子ども問題に限らずいろいろな相談が持ち込まれるのもこの地域の特徴かもしれません。

「高齢化はこれらが問題」とも話します。商店も少なく、市中部や隣の飯山市へ車で買い物に行くしかないのも現状。「問題が複雑化している」と老々世帯のことも定例会で話題に上っていました。雪の多い地域ならではの雪かきの対策にも協力しています。各地区で高齢者対象のふれあいサロンも定期的に行っています。



▲ふれあいサロンでのお茶飲みの様子

地域のお年寄りには、リタイヤしてもみな元気に畑に出ています。訪問の際は、畑で声をかけることも多いといいます。また民生児童委員が立ち上げにかかった子ども食堂も月1回開催。2人がボランティアでお手伝いしています。

定例会は年6回程度。各委員はみな積極的に意見を交わします。「自主的に自由に意見交換できる場」と、司会は当番制にしました。「例えば、中野市の他地区の委員との交流や、講師を呼んだ研修など、今後は豊田地区らしい協議会運営ができれば」と、改選で半数が新任という、豊田地区の会長になって1年が過ぎ、今後は委員同士の連携などチームワークが課題です。



表紙写真紹介

須坂市「明徳山のトチノキ」

撮影

須坂市東地区民生児童委員・主任児童委員
宮下 芳一 さん

profile 退職後、写真を通して故郷の美しさを知ることが楽しみとなり、毎年テーマを決めて写真展開催に挑戦しています。



平成30年度長野県民生委員児童委員協議会連合会事業計画

「支えあう 住みよい社会 地域から」～住民の笑顔、安全、安心のために～

I 事業の方針(一部掲載)

地域共生社会の実現に向けた「我が事・丸ごと」の地域づくりを推進していくため、昨年社会福祉法が改正され本年4月に施行されました。住民の最も身近な相談相手であり、日々の活動を通じて様々な課題を抱えた住民の福祉サービスへのつなぎ役を果たしている民生委員・児童委員には「住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくり」を担う存在としてより一層の期待が寄せられています。昨年、民生委員制度創設100周年、児童委員制度創設70周年という歴史的な節目を迎え、民生委員・児童委員の活動に関わる課題をもう一度見つめ、「住民の笑顔・安心・安全」という目標実現に向けて活動を展開していかなければなりません。長野県民生委員児童委員協議会連合会では次の100年に向かう最初の一歩として事業を進めてまいります。

II 事業の重点

1 災害時要援護者支援活動の推進

全国各地において土砂災害、噴火、風水害、地震などの災害が発生していることから、さまざまな生活課題を有する地域住民の円滑な避難やその後の避難生活を支えるため、民児協独自の活動をはじめ行政機関や地域の関係団体と連携し、災害時要援護者支援活動の取組みを進めます。

2 地域社会での孤立・孤独をなくす運動の推進

長野県と締結した「長野県地域見守り活動に関する協定」に基づき、県と相互の連携を強化し、市町村からの協力要請により安否確認等を行うことになっていることなどから、日々の相談・見守り活動を充実させる支援を行うとともに、行政や地域の関係団体等と協力しながら住民同士の互助の取組みを進めます。

3 地域における子育て支援活動の推進

児童虐待や犯罪被害等から子どもを守り、課題を抱えた親子を早期に発見し、つなぎ、支える活動に取り組みます。このために関係機関、地区担当の児童委員と主任児童委員が連携を強め、子育てを応援する地域づくりの推進に努めます。

4 生活困窮世帯(生活困難家庭)への相談支援活動の推進

誰もが生活困窮に陥る恐れがある現代社会の中、生活に困っている方が自立するための支援が急がれており、生活困窮者自立支援制度における民生委員・児童委員の行政等への協力のあり方や必要な情報共有等について関係機関との連携を進めます。

5 単位民児協の組織強化の推進

県内、県外民児協や広域での民児協との交換研修の促進を図るため、交換研修等を実施した民児協に対して引き続き助成金の交付を行います。

6 民生委員・児童委員が活動しやすい環境づくりの推進

民生委員・児童委員ならびに単位民児協における課題を整理・検討し、民生委員・児童委員が活動しやすい環境整備を進めるとともに民生委員・児童委員の「なり手」確保に向けた対策を検討します。

7 広報の充実

地域住民などに、民生委員・児童委員の制度や役割と活動への理解を深めてもらうため、ホームページを作成します。

研修会・セミナー等の開催スケジュール

民生委員児童委員協議会長研修

◆平成30年8月23日(木) (中南信会場：長野県伊那文化会館) ◆平成30年8月24日(金) (東北信会場：長野県庁講堂)

民生委員・児童委員研修

会場	期目	開催日	会場	対象地域
北信会場	1期目	平成30年10月17日(水)	ホクト文化ホール	埴科郡、上高井郡、下高井郡、上水内郡、下水内郡 長野市、須坂市、中野市、飯山市、千曲市
	2期目以上	平成30年11月6日(火)		
東信会場	1期目	平成30年10月16日(火)	佐久市コスモホール	南佐久郡、北佐久郡、小県郡、上田市、小諸市、 佐久市、東御市
	2期目以上	平成30年11月8日(木)		
中信会場	1期目	平成30年10月15日(月)	キッセイ文化ホール	木曾郡、東筑摩郡、北安曇郡、松本市、塩尻市、 安曇野市、大町市
	2期目以上	平成30年11月5日(月)		
南信会場	1期目	平成30年10月18日(木)	駒ヶ根市文化会館	諏訪郡、上伊那郡、下伊那郡、諏訪市、茅野市、 岡谷市、伊那市、駒ヶ根市、飯田市、
	2期目以上	平成30年11月7日(水)		

主任児童委員研修 平成30年8月20日(月) (東北信会場：長野県自治会館)
平成30年8月31日(金) (中南信会場：長野県伊那文化会館)

※研修の期日等は、変更になることがありますので
あらかじめご了承ください。

心配ごと相談所相談員等研修

◆平成31年2月19日(火) 松本市浅間温泉文化センター



広報委員

リレー日記

佐久市では毎年5月から6月にかけて、「高齢者等実態調査」を行なっています。

65才以上の全世帯が対象で、各地区担当の民生児童委員が、訪問調査させていただく活動です。自ら地域を歩き実情を把握する。「顔と顔を合わせる」ことで信頼関係が生まれ、相談相手になり支援へのつなぎ役となつていきます。調査後は「災害時要援護者登録台帳」を更新します。少子高齢化進行と地域社会の変化も多様化しており、認知症高齢者の増加も急速に進んでいます。「2025問題」(団魂の世代が後期高齢者)認知症高齢者は700万人を超えるといわれ、支援体制づくりが急務となっています。今月号は認知症特集です。関係機関の皆様には、大変お忙しい中、訪問取材させていただきました。民生児童委員として地域で何ができ、支援体制づくり等、地区定例会で研修等していただければ幸いです。

また、4月19日に佐久市で行われた「子育て支援4者連絡会議」の様子も掲載されています。新学期が始まったばかりでお忙しい中、関係機関の皆様お世話になりました。子どもや子育て家庭をめぐる課題も多く、不登校児も多く民生児童委員、主任児童委員が連携して、相談相手、見守り活動が一層重要となります。

真夏の暑い中での活動、お体留意されながらご活躍ください。

土屋 珠江

広報委員 / 熊井 文弘・土屋 珠江・増田 早苗・深澤 保雄